

平成 28 年度第 2 回「生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)

余寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、神奈川県では例年、授業改善の取組みに資するものとして年に 2 回「生徒による授業評価」を実施しておりますが、今年度の本校における第 2 回（後期）の実施結果がまとまりましたので、次のとおりご報告申し上げます。

1 アンケート設問

県の設定項目		設問	本校の調査項目(共通小項目)
授業内容	授業の準備 教材の工夫	1	授業が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。
	授業の充実感	2	私は授業で学習した内容がだいたい理解できている。
	授業の進め方	3	生徒の理解度に合わせて授業が進められている。
指導方法	生徒主体の 授業の工夫	4	授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。
	説明の分かり易さ	5	説明の仕方がていねいで、わかりやすい授業である。
	生徒への接し方	6	生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。
自分自身の 取組状況	学習への取組	7	私は授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をしている。
	態度・姿勢	8	私は授業に対して意欲的に取り組んでいる。

アンケートの設問は、県の共通の設定項目である上記の 8 項目について問が設定されています。その各項目に対して、「4 かなり当てはまる」「3 ほぼ当てはまる」「2 あまり当てはまらない」「1 ほとんど当てはまらない」の 4 段階で評価をし、回答します。

2 調査対象者数

実施したアンケートの教科毎の対象者数は次のとおりです。

教科	国語	地歴	公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	専門	総合
人数(人)	661	820	297	368	682	892	434	894	383	243	659	457

3 調査結果についての分析(数値は全体平均)

8 項目の全てにわたって、85%を超える肯定的評価を得ています。特に、設問 1 は 95%、設問 5 は 94% という回答が寄せられており、前期と同様に「生徒が取り組みやすいように工夫され、説明がていねいでわかりやすい授業」が行われているという評価を得ることができました。さらに、前期の集計結果と比較すると、8 項目全ての肯定的評価が、前期の数値を超える結果となっており、後期の授業内容・指導方法・生徒自身の取組状況が改善されたことが分かりました。ただし、その中でも「授業の充実感」(設問 2)と「生徒主体の授業の工夫」(設問 4)の回答では、評価 1、2 が 10%を超えており、生徒一人ひとりが主体的に取り組むことのできる授業や、生徒の理解に合わせて進める授業のあり方を見直していく必要があると考えられます。

4 今後の授業改善に向けて

基本的知識の確実な定着に向けて、サポートティーチャー(自学自習支援教員)の活用を促進し、きめ細かく丁寧な指導、補習の実施等の学習サポートを引き続き充実させていきます。

また、本校は「ICT利活用授業研究推進校」として、PC やプロジェクター、iPad を授業にて活用しています。様々な科目で、ICT機器を利用した情報の検索や発表、協働学習など、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業に発展させる取組みも今後さらに加速させていき、生徒の主体的な学びに繋がっていきます。

問合せ先
副校長 吉田
電話 045(953)1005

5 集計結果

教科	評価	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8
国語	4	54%	39%	50%	50%	59%	52%	40%	49%
	3	43%	50%	45%	38%	36%	43%	46%	42%
	2	4%	9%	5%	9%	4%	5%	12%	8%
	1	0%	1%	0%	3%	0%	0%	2%	1%
地歴	4	53%	35%	45%	39%	56%	45%	38%	49%
	3	42%	52%	46%	43%	39%	47%	46%	43%
	2	4%	12%	8%	14%	4%	7%	14%	7%
	1	0%	1%	0%	3%	0%	1%	2%	1%
公民	4	41%	28%	35%	32%	44%	31%	29%	37%
	3	52%	58%	53%	46%	49%	57%	51%	51%
	2	6%	13%	11%	18%	6%	11%	17%	10%
	1	1%	2%	1%	4%	1%	1%	4%	3%
数学	4	50%	33%	46%	38%	51%	50%	41%	44%
	3	42%	44%	43%	43%	40%	40%	40%	42%
	2	6%	18%	7%	13%	7%	7%	14%	11%
	1	3%	5%	4%	7%	3%	4%	5%	4%
理科	4	49%	28%	41%	35%	50%	39%	31%	41%
	3	46%	51%	50%	46%	44%	50%	48%	46%
	2	5%	18%	9%	16%	6%	9%	16%	11%
	1	1%	3%	1%	4%	0%	2%	5%	2%
保健体育	4	57%	52%	55%	53%	60%	55%	49%	59%
	3	40%	43%	40%	40%	36%	40%	42%	36%
	2	3%	4%	4%	6%	4%	4%	8%	3%
	1	0%	0%	0%	1%	0%	1%	2%	1%
芸術	4	59%	50%	56%	55%	59%	60%	50%	59%
	3	39%	44%	40%	37%	38%	37%	42%	37%
	2	2%	5%	4%	7%	3%	3%	7%	5%
	1	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	0%
外国語	4	53%	36%	47%	53%	52%	49%	44%	49%
	3	43%	48%	47%	40%	41%	46%	45%	43%
	2	4%	14%	6%	6%	6%	4%	9%	6%
	1	1%	2%	1%	1%	1%	1%	2%	1%
家庭	4	60%	48%	57%	54%	63%	57%	52%	57%
	3	36%	43%	37%	38%	33%	38%	37%	37%
	2	3%	8%	4%	7%	3%	4%	9%	5%
	1	1%	1%	1%	2%	1%	1%	3%	1%
情報	4	43%	33%	39%	38%	47%	42%	39%	51%
	3	49%	55%	49%	45%	44%	47%	45%	40%
	2	7%	11%	9%	14%	7%	9%	13%	10%
	1	2%	2%	2%	3%	2%	2%	3%	0%
専門	4	64%	55%	63%	60%	66%	65%	60%	65%
	3	32%	38%	31%	31%	30%	30%	33%	31%
	2	3%	6%	5%	8%	4%	4%	6%	3%
	1	0%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
総合	4	37%	37%	37%	39%	40%	41%	37%	43%
	3	52%	52%	53%	49%	49%	50%	47%	47%
	2	9%	9%	8%	10%	10%	8%	13%	8%
	1	2%	2%	2%	2%	1%	1%	2%	1%
全体平均	4	53%	40%	49%	47%	55%	50%	43%	51%
	3	42%	48%	44%	41%	39%	43%	43%	41%
	2	4%	11%	6%	10%	5%	6%	11%	7%
	1	1%	2%	1%	2%	1%	1%	2%	1%

6 教科での分析と改善に向けて

教科	授業評価の結果から読み取れる課題など	今後の授業改善に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。」という項目は4, 3の評価を合わせて、88%となり、90%に達しなかった。授業で発表の場を設定しても、生徒がそれをこの項目に該当すると捉えていない、あるいは科目の特性上話し合いや意見発表の時間を多くとることが難しいといった面があるが、より高い評価となるよう授業内容の工夫を追求していきたい。 ・自分自身の取組状況「私は授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をしている。」という項目も4, 3の評価を合わせて、86%となり、やはり90%に達しなかった。より一層生徒自身が主体的に授業の理解を深める努力をするように促していきたい。 ・他の項目は4, 3の評価を合わせるとおおむね90%に達し、生徒から一定の評価を得られたと考えている。今後も生徒がより充実した授業と捉えられる内容を目指していく所存である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、系の目標「基礎学力の向上と定着を図る」をさらに充実させるため、学習内容の理解が深まるプリント学習、スモールステップで生徒の学習理解がしっかりと定着していることを確認するなどの指導を一層徹底していく。 ・教科、系の目標「自己表現力、他者と相互理解をはかるコミュニケーション能力の育成に努める」においては、科目の観点別評価「話す」「書く」にもあるようにこれからも必要に応じて、文章作成、スピーチ発表、ディスカッション、ディベートなどを取り入れていく。 ・教科、系の目標「個々の生徒に応じた、学習の発展・充実を図る」べく、一人ひとりの生徒の学力に相応した補習、添削指導を今後も継続していく。
地理・歴史・公民	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において、授業の充実感や説明の分かり易さを尋ねる設問において概ね高い評価を得ており、生徒の理解度に合わせた授業展開がなされていると考えられる。また、学校設定科目では調べ学習や討論など社会科の代表的なスタイルとは違うような授業もあり、多角的に社会科的事象に対してアプローチをしている。 ・今後も教科・系の目標である「基礎学力の向上と学習内容の定着」が一層深まるよう、指導を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員がICTの利活用について研究をしているところである。今後も情報交換を重ね、さらなる工夫をしていきたいと考える。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な数学」や「数学研究」などの科目と比べて、「設問4 生徒主体の授業の工夫」の評価が低い。授業中の発問に答えることも、意見を発表しているのと同じこと。生徒に対して、「自分は主体的に活動できている。」と意識付けをすることが必要なのではないか。という内容の協議が前期に行われたが、まだ生徒に伝えきれていない。毎回の授業を通しての意識付けが必要。 ・「設問1 設問3」について、授業の準備、教材の工夫、進め方は評価されているので、多数の生徒にとって取り組みやすい授業がつくれているように思う。評価が低い生徒に対して、どう引き上げていくかが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員で担当している科目については、教材や情報を共有し、よりよい授業づくりに努める。 ・ICTを効果的に取り入れるタイミングを検討し、実践していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に参加したという実感をもてるよう、実験を取り入れたり、積極的にワークシートを用いて授業を展開した。ほとんどの項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」が80%、90%を占めており、それなりの効果が認められる。しかし、「生徒主体の授業の工夫」の数値が環境系の科目に比べ、理科の科目が低くなっている。 ・理科に対する苦手意識がある生徒が多くいる中、実生活との関連を図ったり、ICTを活用し興味・関心を引き出す授業を展開した結果、全般にわたって適切授業は行われていることが分かる。ただし、設問2「授業の充実感」が他の項目よりもやや低くなっていることから、授業で学習内容が理解できない生徒がいることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力の定着を図る」については、今後とも「実験の実施」、「ワークシート等の活用」等を積極的に行い、きめ細かく指導を行っていくことが必要と考える。生徒が自ら学ぶ習慣を身に付けさせることを目標に工夫を重ねていくことが必要とであろう。「ICTの効果的な利活用」については、多くの科目で実践できたので、さらに引き続き工夫を重ね、より効果的な活用ができるようにしていく。 ・指導法の情報共有など、科目の枠を超えて密に行っていくのと同時に、ICTの利活用やグループワーク、実験演習を今まで以上に取り入れ、工夫していくことで生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を向上させることで、課題となっている基礎学力の定着を図ってきたい。

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次保健の設問7【学習への取組み】で学習に対する意欲の低さが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次保健では、生徒の興味・関心を引くような教材の準備が必要と考えられる。それが、自らの学習意欲につながっていくと考える。 ・授業内で出てくる言葉、単語（キーワード）の意味をもう少し噛み砕いて説明することで、生徒たちの理解が深まるのではないかと考える。また、来年度より授業が100分授業となるので、説明するための時間が確保できると考えている。 ・7月の授業評価より設問4【生徒主体の授業の取組み】の向上が見られた。今後は学期始まりの段階で生徒同士の人間関係が構築されるよう話し合う場面やお互いの意見を共有する場面を多く設けていく流れを作っていく。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・設問1～3および5、6の結果から、生徒の実態を把握し個々の能力に応じた授業ができていると分析した。 ・学習内容に応じてICTを活用した結果、理解を深め基礎的な学力の定着を図ることができたと考える。 ・設問7、8の結果から、生徒の興味・関心・意欲を引き出した授業が行えたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の目標については概ね達成できているが、各設問で1や2と回答している生徒も数名いる。 ・ICT活用だけでなく、教材を精選し生徒理解を深め、関心・意欲を引き出した授業を行い基礎的な学力の定着に努めたい。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・設問7、8で3、4と回答した生徒の割合が90%であることから、生徒は授業に意欲的に取り組んでいることが分かり、これは生徒の学習意欲を高める工夫の結果であると考えられる。 ・しかし、その一方で、設問2を4と回答した生徒は37%に留まっており、授業内容を理解できていると感じている生徒の割合の低さが目立った。また、設問5を3、4と回答した生徒の割合も全体平均と比べると低く、他教科と比べて丁寧な説明でわかりやすい授業を展開できていないことが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の課題から、生徒の学習意欲を高めると同時に、生徒が分かりやすいと感じる説明をし、生徒の理解を向上させる授業展開が必要であると考えられる。また、より基本的な知識に重点を置いて指導をしていくことで、生徒の理解を助けられるのではないかと考える。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の満足度が高いことが読み取れるので、生徒の目的意識にあった授業内容であったと考えられる。また、実習を多く取り入れているので生徒の意欲や達成感などをより引き出したのではないかと思う。今後とも充実した授業内容にできるよう努力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通科目では、より生徒の興味を引き出すことができる授業内容を検討していく必要がある。その一環としてICTの効果的な活用の仕方なども検討していくことが有効な手立てだと考えられる。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむねよい評価になっていると思われる。 ・2年次・3年次に履修する科目である「情報の科学」や「アルゴリズムとプログラム」・「表現メディアの編集と表現」・「パソコン活用講座」に比べて、1年次で履修する「社会と情報」では、授業での充実感や生徒主体の授業の工夫の設問で低い評価をつけている生徒が多い。後期にはパワーポイントを作成し、発表の機会も設けて授業を工夫してきたが、座学の部分では先の二つの項目での評価が下がってしまうのではないかとと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期からも行っているが、座学の部分にも、生徒自身に考えさせるような場面を作り、主体性を持たせていくことで、授業での充実感も増していくのではないかと考える。